

目を覚まし、愛によって歩む教会

コリント人への手紙 第一 16章 13節-24節

2026年3月22日 礼拝

📖 聖書箇所

「目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。雄々しく、強くありなさい。一切のことを、愛をもって行いなさい。」（コリント第一 16:13-14）

序論

- ・ 体は動いていても、心・意識が別のところにあることがある
⇒ 信仰生活も同様のことが起こりうる
- ・ パウロの「目を覚ましていなさい」は、怒りや責めではなく、眠りかけた羊への愛ある呼びかけ

1. 総括的な5つの命令（13-14節）

※ すべてギリシャ語の現在命令形 → 「継続して～し続けなさい」という意味

① 目を覚ましていなさい

- ・ コリント教会の問題：性的な罪を見て見ぬふり、派閥争い、復活否定の誤った教えへの惑い
- ・ 罪・偶像礼拝・偽りの教えに対して鈍感にならず、主が示した真理の中を歩み続けること

② 堅く信仰に立ちなさい

- ・ キリストという土台に建てられること、十字架の贖いと復活の福音をしっかりと保つこと
- ・ 人ではなくキリスト、復活の希望を握りしめて歩み続けること

③ 雄々しくありなさい

- ・ 困難の中でも勇気ある決断と行動。自分の正義を声高に叫ぶことではない
- ・ 迫害や困難があっても勇気をもって福音を伝え、福音に生き続けること
- ・ （参照：パウロ自身の歩み 4:9-16）血肉の戦いではなく、平和と福音を語り続ける歩み

④ 強くありなさい

- ・ ギリシャ語「κραταλοῦσθε」=受け身形 → 「強くされ続けなさい」（自力ではなく神の力によって）
- ・ この手紙には、いつも【主】からの力が与えられることが書かれていた。十字架の言葉は神の力（1:18）、試練とともに脱出の道も備えられる（10:13）、聖霊の賜物・キリストによる勝利

⑤ 一切のことを、愛をもって行いなさい

- ・ 上記4つの命令を包み込む命令。この手紙全体を通じた一貫したメッセージ
- ・ 分裂問題の解決・正しい聖餐・賜物の使い方 すべてにおいて「愛がなければ何の役にも立たない」（13章）

2. 模範：仕える人に従う（15-18 節）

- ・ステファナの一家：アカイアの初穂、パウロが直接洗礼を施した人（1:16）
 - ・リーダーとして偉ぶるのではなく、教会の人々のために一生懸命に奉仕
 - ・コリント教会の問題をパウロに伝える架け橋となり、教会の重荷を軽くした
 - ・命令：「このような人たちに従いなさい」「このような人たちを尊びなさい」（16, 18 節）
- 目立った働き・強い言動の人ではなく、忠実に仕え、人と人をつなぐ人こそ模範とすべき

3. 実践：まずは挨拶から（19-21 節）

- ・アジアの諸教会・アキラとプリスカ・すべての兄弟たちからの「心のこもった挨拶」があった
 - ・ここには空間を超えたキリスト者同士の愛の一致・教会としての一体性が現れている
 - ・挨拶の意味：「あなたの存在を認めています」——相手への信頼と愛の表現
 - ・「聖なる口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい」（当時の親愛と平和の挨拶）
- 日本では口づけの文化はないが、【主】にある者として心からの挨拶を大切に

4. パウロの挨拶（22-24 節）

- ・「主を愛さない者はみな、のろわれよ」：当時の教会で定期的に唱えられていたことば
呪い：アナテマ 呪詛ではなく、神様の裁きの中に置くという意味
 - ・縦の関係（主との関係）なしに横の関係（兄弟姉妹・隣人への愛）は成立しない
 - ・「主よ、来てください」（マラナタ）：【主】の再臨への待望。主を愛する者には希望の時
 - ・「主イエスの恵みが……」「私の愛が……あなたがたすべてとともにありますように」
- 必要なのは【主】を愛し、【主】の恵みが共にあること、キリスト・イエスにあって互いに愛し合うこと

結論

パウロが教会に求めたのは、特別に新しいことではなく、最も大切なことへの立ち返り

- ・目を覚ましていること
- ・信仰に堅く立つこと
- ・勇気をもって歩むこと
- ・神様によって強くされ続けること
- ・何よりも、一切のことを、愛をもって行うこと

その歩みはステファナの一家のような忠実な奉仕の中にあり、また「心からの挨拶」という小さな一歩の中にも現れる

今週への適用

- ・礼拝後の交わり・家庭・日常生活の中で、まず心からの挨拶を交わすことから始める
- ・主を愛することを第一に、主の再臨を待ち望みながら主の恵みによって互いを愛する
- ・目立つ人・強い人を誇る教会ではなく、主にあって目を覚まし、福音に堅く立ち、愛をもって仕え合う教会へ